

## 令和7年度 第3回 エルシーバイ放送番組審議会

■開催日時 令和7年12月12日（金） 午後3時30分～午後5時00分

■場 所 エルシーバイ株式会社 本社会議室

■出席者 委員総数 5名

出席委員	市川 純章	委員
	河西 滋子	委員
	赤沼 喜市	委員（欠席）
	井上 淳哉	委員
	菊池 大介	委員

放送事業者側 9名

常木 真次	代表取締役社長
武居 賢次郎	専務取締役
堀川 久志	放送制作部 部長
吉田 和晃	放送制作部 コンテンツ制作課長
小池 利幸	放送制作部 報道制作課長
小池 嘉則	放送制作部 放送コミュニケーション課長
早川 達朗	放送制作部 編成課長
田中 俊行	放送制作部 報道制作課
内藤 由里子	事務局

## ■議 事

### 1. 審議事項

【審議番組】 かくれんぼのイイトコみーつけた！

<委員からの主な意見>

□番組を評価する意見

- ・賑やかな感じで良かった。
- ・情報が抑えられていて良かった。
- ・子供向けにも開かれていて良い番組だった。
- ・リポーター二人のコンビネーションが良く、楽しく観られた。
- ・映像が綺麗で、緑も綺麗でツアーをしている感覚になった。
- ・絵柄・テンポは良かったが、一方で番組のストーリーがなかった。番組の狙いからするとこの構成でも良かったのかなと思った。

□番組をより良くするための意見

- ・「セギ」は方言なので、農業用水路である説明が入っていたら良かった。
- ・諏訪地域以外の人が見た時にも分かる様に、地域文化として伝えても良かったと思った。
- ・場所に対して一番フォーカスを当てている番組だと思う。周りの音が入って雰囲気を感じた。音で水の勢いが伝わった。場所を変えてしまったのは勿体無かったと思った。
- ・水音は臨場感として楽しめたのではないかと思った。
- ・女性は華があり、役割も大きい。リポーターやガイドに起用しても良いのでは。
- ・地元の人が映ると変化だったかもしれないが、番組の趣旨からすると違った。
- ・「へえー」というのも、もう少し入れても良かった。
- ・目的（ゴール）をどう設定するかが、あると良かった。
- ・教養的に見ようとすると難しいテーマだった。
- ・普段なんとなく過ごしている場所に虫眼鏡を向けたら新しい発見があるのでは。

>>放送事業者側の補足)

- ・地域を語りたい人がたくさんいる。
- ・地域の魅力・人の魅力を出していきたい。
- ・ニュースで富士見小学校の生徒が、「セギ」の見学に行った様子取材に行き感想を聞いた。子どもたちの声を番組で後追いしてもよかったと思った。
- ・滝の近くでは、水の勢いで演者の方の会話が聞き取れなかったので場所を移動した。
- ・2024年5月から少しスタイルを変えて、案内人（有識者）の方と一緒に回るスタイルとした。
- ・子ども達が見ている様なシーンがあれば、大人から子供までの番組ターゲットが生きてくると思った。現在も小学校4年生で「セギ」の勉強をする学校があり、案内人の関さんも出張授業で説明している。

- ・関さんとリポーター2人の計3人にそれぞれにマイクを付けていた。川の音が3人同時に入ってきたので音調整は苦労した。

#### □その他

- ・発見の楽しみを感じられるモデルとしての番組だと思う。
- ・諏訪の独特な物や歴史をアーカイブとして残していく事がケーブル局としての役割。
- ・地域の歴史的なところを今と昔で再確認する番組があれば面白い。
- ・YouTubeチャンネルで歴史文化が良く見られている。諏訪にはマニアックな見どころが沢山ある。
- ・いわゆる街ブラ番組の制作が難しくなった。10年～15年の間に歩いている人が少なくなった。
- ・生活の様式が変わってきており、「時間の貧困」が起きている。
- ・地域の人達が地域を作って来た事に気づいていない、というところに上手くテレビでフォーカスを当てられないかなと思う。
- ・余力のある人が地域にいない。ボランティアと経済活動の両方があって国が出来ているところを気付くようにしていかないといけないと思う。
- ・労働の時間だけが問題となり、人々の暮らしの時間を問題としていなかった。
- ・時間の貧困の問題は、話題となっている。そういう事に気付いていく様な番組作りが必要。

以上